

令和4年6月30日
農推第1210-3号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

6月から8月は農薬危害防止運動月間です。農薬の安全かつ適正な使用を徹底し、農薬の使用に伴う事故・被害を防止しましょう。

発生に注意！（7月）

ぶどう

チャノキイロアザミウマ

- 発生を認めたら**ディアナWDG**、**ヨーバルフロアブル**などを散布しましょう。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行いましょう。
- 農薬を散布する際は、葉害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行いましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめなど）

クビアカツヤカミキリ

- 幼虫は、幹や枝から中華麺〜うどん状のフラス（木くずなどの混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金などを穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。発生地域では、**モスピラン顆粒水溶剤**など成虫対象の登録薬剤を樹全体に散布しましょう。
- ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで殺虫しましょう。

みかん

ミカンハダニ

- 園内でも毎年早く発生する場所（ツボ）があるので、その場所をよく見て発生を確認しましょう。
- 発生を認めたら**ダニコングフロアブル**、**スターマイトプラスフロアブル**、**ダニエモンフロアブル**などを散布しましょう。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布しましょう。

果樹類全般

果樹カメムシ類

- チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害します。
- 発生量や加害時期は年により変動するので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行ってください。
- 発生を認めたら、**スタークル／アルバリン顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かき、なしなど）**、**アーデント水和剤（もも、なしなど）**を散布してください。多発時には、残効性が比較的高いピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤を中心に散布しましょう。
- 薬剤散布は夕方か早朝に行くと効果的です。

野菜・花き類

アブラムシ類

- 作物を吸汁し、生育を阻害します。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となります。さらに、各種のウイルスを媒介します。
- 発生を認めたら登録を確認し、**スタークル／アルバリン顆粒水溶剤**、**トランスフォームフロアブル**、**ウララDF**などを散布しましょう。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布しましょう。

次回の情報は7月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

病害虫の発生予報(7月)

水稲

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
				縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)		
		ジャンボタニシ(スクミリングガイ)(発生に注意)				
		斑点米カメムシ(発生に注意)				

果樹

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				褐斑病		
				晩腐病		
					チャノキイロ アザミウマ	
もも			せん孔細菌病			
				シンクイムシ類		
バラ科果樹		クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病			
					ミカンハダニ	
いちじく				ミカンサビダニ		
				アザミウマ類		
果樹類全般					果樹カメムシ類	

野菜

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病				
			灰色かび病			
		うどんこ病		アザミウマ類		
トマト		葉かび病・ すすかび病				
			灰色かび病			
		うどんこ病				
					コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)	
		ハモグリバエ類				

花き(きく)

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き (きく)		黒斑病・褐斑病				
				アザミウマ類		

野菜類・花き類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・ 花き類				シロイチモジヨトウ		
				ハスモンヨトウ		
				コナガ		
				オオタバコガ		
					アブラムシ類	

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)※原図:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図:大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

水稲

いもち病



葉いもち被害葉

特徴

- ◆ 低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆ いもち病の常発ほ場で箱施用剤を使用していない場合は、発生前にオリゼメート粒剤、コラトップ粒剤5、ゴウケツ粒剤、サンブラス粒剤、ゴウケツパック、サンブラスパックなどを散布する。
- ◆ 発生を認めたらブラシフロアブルなどを散布する。

縞葉枯病（ヒメトビウнка）



縞葉枯病発病株



ヒメトビウнка※

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウнкаにより媒介される。
- ◆ リ病株では、新葉が垂れ下がって枯死する（ゆうれい症状）。

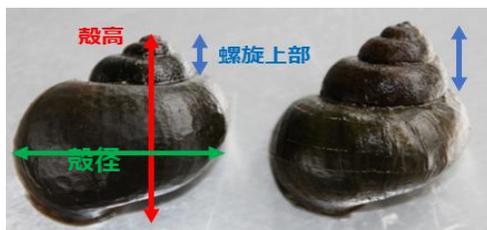
防除のポイント

- ◆ ヒメトビウнкаが増殖しないように、周辺のイネ科雑草の除草を行う。
- ◆ 発生が多い場合は、アプロード水和剤、スタークル／アルバリ
ン粒剤、エクシードフロアブルなどを散布する。

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注) 当該項目「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆ 主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
- ◆ 田植え直後にスクミノン、スクミンベイト3、ジャンボたにしくんなどを散布する。

注) スクミノン、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。



卵塊

「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。
<http://www.ippn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

特徴

- ◆ アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシなどの発生が多い。
- ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。
- ◆ 薬剤散布は穂揃期に行う。

防除のポイント

- ◆ 出穂10日前までにほ場周辺の畦畔や休耕田の除草を実施する。

果樹

ぶどう（加温栽培）

べと病



べと病被害葉（葉裏）

特徴

- ◆ 気温20～22℃位のやや低温で雨が多いと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要である。
- ◆ 発生が見込まれる時期に **ICボルドー48Q** を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、**ライメイフロアブル**、**エトフィンフロアブル**、**レーバスフロアブル**などを散布する。
- ◆ 農薬を散布する際は、葉害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

注) ライメイフロアブルを幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがある。

褐斑病



褐斑病被害葉*

特徴

- ◆ 米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア、バッファローなどに発生が多い。
- ◆ 多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、**オンリーワンフロアブル**、**ネクスターフロアブル**、**フルーツセイバー**などを散布する。

注) ネクスターフロアブル、ホライズンドライフロアブルを幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがある。

晩腐病



晩腐病被害果※

特徴

- ◆ 新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発しやすい。
- ◆ デラウエアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きつるなどで越冬する。

防除のポイント

- ◆ 施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
- ◆ 笠かけや袋かけを行う。
- ◆ 被害果房は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 前年度の発生状況をふまえ、**フルーツセイバー**、**オンリーワンフロアブル**などを予防的に散布する。

注) フルーツセイバー、セイビアーフロアブル20を幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがある。

チャノキイロアザミウマ



チャノキイロアザミウマ被害果*

特徴

- ◆ 巨峰、シャインマスカットなどの大粒系品種で被害が大きいため注意する。

防除のポイント

- ◆ ディアナWDG、ヨーバルフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

もも

せん孔細菌病



せん孔細菌病被害葉

特徴

- ◆ 降雨、強風によって発生が助長される。
- ◆ 果実は幼果～未熟果期に感染しやすい。

防除のポイント

- ◆ 伝染源となる発病枝などは取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 降雨前など発生が見込まれる時期に、バリダシン液剤5、スターナ水和剤などを散布する。

令和4年3月22日発出の防除情報「せん孔細菌病に注意！」についてもご参照ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyojyouhou/R0403senkousaikin.pdf>

シンクイムシ類



シンクイムシ類被害果

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害果実や被害枝は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）にノーモルト乳剤、サムコルフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

バラ科果樹（もも、うめ、すももなど）

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆ 成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くずなどの混合物）を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんよりも細い（中華麺状）フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。



クビアカツヤカミキリ被害枝



ネット被覆（さくら）

防除のポイント

- ◆ フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで殺虫する。
- ◆ 伐採後の切り株についても、ネットやビニルシートなどで2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金などを穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ 発生地域では、モスピラン顆粒水溶剤、テツパン液剤など成虫対象の登録薬剤を散布する。

クビアカツヤカミキリについては「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策 改訂版」をご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2112V2.pdf

温州みかん

黒点病



黒点病被害果

特徴

- ◆ 梅雨時期など雨が続くと発生が増加しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期（梅雨期、秋雨期）に、ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。
- ◆ ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
注）かんきつ（みかんを除く）では、上記3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

ミカンハダニ



ミカンハダニ被害葉*

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなりやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、スターマイルトプラスフロアブル、ダニエモンフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 薬液は葉裏にもよくかかるように散布する。

ミカンサビダニ



ミカンサビダニ被害果*

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなりやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生の初期に、ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。
- ◆ ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
注）かんきつ（みかんを除く）では、上記3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時期に注意する。
- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤に対して薬剤抵抗性が生じている地域では、7月中旬にコテツフロアブル、ダニカット乳剤20、ダニエモンフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

いちじく

アザミウマ類



アザミウマ類被害果*

特徴

- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ スピノエース顆粒水和剤、コテツフロアブル、アディオソ乳剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。

果樹類全般

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生量や加害時期は年により変動するので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。
- ◆ 発生を認めたら、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かき、なしなど）、アーデント水和剤（もも、なしなど）を散布する。多発時には、残効性が比較的高いピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤を中心に散布する。
- ◆ 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。

令和4年6月1日発出の防除情報「果樹カメムシ類に注意！」についてもご参照ください。
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyoyouhou/2206_bojo02\(kajukamemushi\)_soshin.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyoyouhou/2206_bojo02(kajukamemushi)_soshin.pdf)

野菜

なす

すすかび病



すすかび病被害葉

特徴

- ◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多く見られる。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 施設栽培では、過湿にならないように管理する。
- ◆ 発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、プロポーズ顆粒水和剤、ストロビーフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

灰色かび病



灰色かび病被害果*

特徴

- ◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすい。
- ◆ 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに、被害葉・被害果を早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ハウス内の換気を十分に行う。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤などを、発生を認めたら、セイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

うどんこ病



うどんこ病被害葉

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロパティフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ アザミウマ類は、葉裏、花、幼果（へたの下）に多い。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アファーム乳剤、ファインセーブフロアブル、モベントフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を行う。
- ◆ 栽培終了後に太陽熱消毒を行い、施設内のアザミウマ類を殺虫する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.8mmの赤色ネット又は0.4mmの白色ネットを展張する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

葉かび病・すすかび病

すすかび病被害葉※
葉表（左） 葉裏（右）※

特徴

- ◆ 近年増加傾向にある。
- ◆ すずかび病は、葉かび病より葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 被害茎葉は、早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフェットフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

灰色かび病



灰色かび病被害葉

灰色かび病被害果

特徴

- ◆ 20℃くらいの多湿時に発生が多い。
- ◆ 花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに、被害葉・被害果を早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤やロブラール水和剤、ゲッター水和剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

うどんこ病



うどんこ病被害葉

特徴

- ◆ 乾燥条件で、気温20～25℃で発生が増える。
- ◆ 日照不足が発生を助長する。

防除のポイント

- ◆ 多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。
- ◆ 発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、アフエックフロアブル、ネクスターフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

コナジラミ類（トマト黄化葉巻病）



タバココナジラミ ※

トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆ 吸汁による果実の着色異常、すす病、タバココナジラミによるTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）の媒介など様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmの白色ネットを展張する。
- ◆ ほ場内および周辺の除草を行う。
- ◆ グレーシア乳剤、ベネビアOD、ベストガード水溶剤などを散布する。
- ◆ 栽培終了後、ハウスを密閉し、ハウス内の作物残さや雑草に残る虫を殺虫する。

ハモグリバエ類



ハモグリバエ類被害葉

特徴

- ◆ マメハモグリバエ、トマトハモグリバエなどが加害する。
- ◆ 施設内では1年中発生が見られる。

防除のポイント

- ◆ 摘葉した被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ほ場内および周辺の除草を行う。
- ◆ ベネビアOD、アフファーム乳剤、ディアナSCなどを散布する。

きく

黒斑病、褐斑病



黒斑病・褐斑病の病斑*

特徴

- ◆ 雨滴によって感染が拡大する。
- ◆ 病原菌の生育適温は24～28℃ぐらいである。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布し、予防に努める。発生を認めたら、トップジンM水和剤、ベンレート水和剤などを散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、葉害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は葉害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ 花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどが加害し、葉には主にクロゲハナアザミウマなどが加害する。
- ◆ ミカンキイロアザミウマはウイルス (TSWV、GSNV) を媒介する。

防除のポイント

- ◆ ほ場内および周辺の除草を行う。
- ◆ きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ ビニールなどのマルチングにより、土中での蛹化を防ぐ。
- ◆ 施設開口部に目合い0.8mmの赤色ネット又は0.4mmの白色ネットを展張する。
- ◆ 発生を認めたら、アフーム乳剤、グレーシア乳剤、スピノエース顆粒水和剤などを散布する。

野菜類・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

シロイチモジヨトウ



シロイチモジヨトウ幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- ◆ 発生を認めたら、グレースシア乳剤（ねぎなど）、ベネビアOD（ねぎなど）、ロムダンフロアブル（ねぎ、花き類・観葉植物など）などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウ幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。
- ◆ 年5～6回発生で、8～10月頃の被害が最も大きい。

防除のポイント

- ◆ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- ◆ 特に老齢幼虫の防除は困難なので、若齢期防除に重点を置く。
- ◆ 発生を認めたら、トレボン乳剤（さといも、さといも（葉柄）、えだまめなど）、アニキ乳剤（さといも、なす、トマト、きゅうりなど）、プレバソンフロアブル5（さといも、なすなど）などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_1.pdf

コナガ



コナガ成虫 ※



コナガ幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC（非結球あぶらな科葉菜類など）、デルフィン顆粒水和剤（野菜類）などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、アフーム乳剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類・観葉植物など）、スピノエース顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、きくなど）、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟ともろこし、花き類・観葉植物など）などを散布する。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤（なす、非結球あぶらな科葉菜類など）、トランスフォームフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、非結球あぶらな科葉菜類など）、ウララDF（なす、トマト、ミニトマト、非結球あぶらな科葉菜類など）などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
<http://www.jpnn.jp/osaka/>

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。